

アジア社会福祉従事者研修 修了生福祉活動助成事業

2022年度 実施報告



社会福祉法人 全国社会福祉協議会

国際社会福祉基金委員会



はじめに

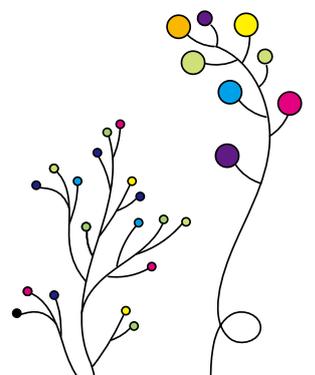
全国社会福祉協議会・国際社会福祉基金委員会は、1997（平成9）年から毎年、アジア社会福祉従事者研修修了生の母国での福祉活動を支援する「修了生福祉活動助成事業」を実施しています。修了生の活動を通じて各国の福祉の向上に寄与することを志し、2022（令和4）年度までに8か国のべ204団体に約6,053万円を助成しました。

各国で取り組まれてきた福祉活動は、低所得の家庭に対する雇用創出のための取り組みやストリートチルドレンの生活・教育の支援、高齢者の心身の健康の維持・増進、障害者の就労支援、虐待を受けた女性や子どもへの支援など多岐に渡ります。

また、2022年度は、2021年度に続き、新型コロナウイルス感染症の長期的な流行による心理的・社会的影響に立ち向かう事業が多く見られました。パンデミックによる心理的な不安に起因するDVや虐待等への対応、子どもの学習環境や健やかな育ちを支える環境が制限されたことへの対応など、さまざまな活動が実施されました。このような2022年度に助成を行った4か国・10件の事業について、修了生たちからのレポートをもとにご報告いたします。

本事業を実施するにあたり、長年ご支援いただいております、公益財団法人日本社会福祉弘済会、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団、そして国際交流・支援活動会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会



contents

目次

※氏名は敬称略、()内は呼称

はじめに	1
事業実施報告	3
The Philippines フィリピン	
Ena Marie Monter (エナ) 新型コロナウイルスの影響を受けた家族のエンパワメント ～対話によるストレス軽減、金融知識の提供、子育てサポート～	4
Thailand タイ	
Tungtriratanagul Chintana (チンタナ) トンラック・アナンダ・マルガ学校の生徒の栄養サポート	8
Malee Prakornkaew (マーリー) 長期化するコロナ禍におけるバランスのとれた食事とセルフケアのサポート	12
Duangjai Saichompoo (ピック) 遊びの支援を通じた児童の発達促進と家族支援 (新型コロナウイルスの影響への対応)	16
Ratchanee Jomsawan (ニー) 障害児の職業訓練	20
Sri Lanka スリランカ	
M.Ariyadasa (アーリヤダーサ) 高齢者のメンタルヘルスと健康増進	24
Nilani Chandrika Weragoda (ニラーニ) スマイル～バック・トゥ・ライフ ～学習障害のある子どもたちの識字力向上～	28
W.G. Sanjeewa Aruna Kumara Rajapakshe (サンジーワ) 新型コロナウイルス感染症等の感染予防対策を備えた学生寮食堂の整備	32
Indonesia インドネシア	
Yayat Hidayat (ヤヤット) 所得創出とソーシャル・ヘルスサービスの提供および子ども・成人・高齢者の健康増進	36
Nandang Noor Rachmat. H (ナンダン) 児童・家庭相談センター設立のためのトレーナー訓練プログラム	40
資料	44

事業実施報告

新型コロナウイルスの影響を受けた 家族のエンパワメント

～対話によるストレス軽減、金融知識の提供、
子育てサポート～



The Philippines / フィリピン

氏名 Ena Marie Monter エナ (34期)

所属団体 バハイ・トゥルヤン財団

新型コロナウイルスのパンデミックの影響等による不安や貧困等によって、家庭内に課題が生じた家族を支援するため、暴力等のトラウマに対する支援、お金に対する知識や能力の向上のための支援、子育て支援等の取り組みを行いました。

所属組織の概要

子どもに対する虐待や暴力の防止活動に取り組んでいます。子どもたちが気軽に立ち寄れる場を提供し、食事や入浴場所の提供等によりストリート・チルドレンの支援をしたり、若者の自立生活のスキル向上のためのプログラム等を実施しています。また、家族再統合の取り組みも行っています。

事業の目的

- 以下の目的のために実施しました。
- ・ 親の能力を高め、親が家庭内の役割を果たせるよう支援すること。
 - ・ 貧困や家族の別離への不安による家族の崩壊を予防すること。
 - ・ お金に関する知識を身に付け、子どもたちのために貯金を始めること。
 - ・ 新型コロナウイルスのストレスやトラウマに関する感情を解消し、発散する場を設けること。
 - ・ 家庭内の暴力の連鎖を断ち切ること。



活動地域

マニラ市内のレベライザ (Leveriza)、ダコタ (Dakota)、マラテ (Malate)、デルパン (Delpan)、トンド (Tondo)、キアポ (Quiapo) の各地域で実施しました。

対象者

所属する財団のシェルターに身を寄せ支援を受けている、社会的に不利な立場におかれた家族のために実施しました。



事業の成果

この活動にはさまざまな場所から参加者が集まり、そのほとんどが母親とその子どもたちで、一人で子どもを育てている女性たちでした。

子どもの権利と女性の能力を引き出すためのセッションでは、子どもや女性の権利について取り上げました。フィリピンには児童虐待に関する法律や、女性と子どもに対する暴力に関する法律があります。参加者は児童虐待や女性への暴力について議論し、自分や他者の権利について話し合いました。

ある親は、このセッションのおかげでパートナーからの虐待に立ち向かうべく、自分と子どもたちを守る力をもらったと話していました。別の親は、以前は娘を叩いたり、怒鳴ったりしていましたが、この訓練を受けた後、自分の行動の問題に気付いた、と話していました。何人かの親から、同様のテーマでのフォローアップ訓練の要望がありました。

前向きなしつけの訓練では、ロール・プレイングやビデオ視聴等を通じて暴力は児童虐待であることを学ぶとともに、子育てのコツを学ぶことができました。



実施内容

子どもの権利についての訓練、しつけについての訓練、心理的な支援、家族キャンプ、お金に対する知識・能力向上を支援するセッションを行いました。

2022年11月19日

子どもの権利と女性のエンパワメント 入門セッション①



2022年12月10日

子どもの権利と女性のエンパワメント 入門セッション②

2023年1月28日

前向きなしつけの訓練

親が子どもの育て方を学ぶことで、家庭が子どもにとって恐怖を抱く場所ではなく、安心できる場所にする必要があります。そのため、家庭や社会全体の虐待を防止すべく、子どもの権利や適切なしつけの仕方についての研修をしました。



2023年2月26日

家族キャンプ

子どもとその保護者との有意義な時間をつくることを目的として開催しました。

2023年3月18日

心理的・社会的なサポート、報告会

新型コロナウイルスのパンデミックは落ち着いてきていますが、家族への影響は依然として残っています。そのようなトラウマは家庭内暴力を引き起こす可能性があるため、心理的・社会的にサポートするためのセッションを行いました。



2023年3月25日

金融リテラシー・セッション（2回）

親がお金に対する知識をつけるため、家計管理の仕方の講習をしました。

今後の展望

フィリピンでは虐待が増加し、社会問題になっています。財団では、家庭内の虐待を防ぐために、家族とその子どもたちを支援する活動を開始しました。研修等を通じた予防活動は効果的であり、家族全員がそろって参加する機会を増やしていきたいです。そのため、私たちは家族を支援・育成していくためのセッションを継続し、長期的にはより多くの家族のサポートにも活用していきたいと考えています。

収支報告

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	318,718	
合 計	318,718	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
子どもの権利と女性のエンパワメントに関するセッション	39,960	食 費 17,760 円 交通費 11,100 円 資料費 8,880 円 場所代 2,220 円
前向きなしつけの訓練	39,960	食 費 17,760 円 交通費 11,100 円 資料費 8,880 円 場所代 2,220 円
心理的・社会的サポートセッション	39,960	食 費 17,760 円 交通費 11,100 円 資料費 8,880 円 場所代 2,220 円
家族キャンプ	39,960	食 費 17,760 円 交通費 11,100 円 資料費 8,880 円 場所代 2,220 円
金融リテラシー・セッション (2回)	79,920	食 費 35,520 円 交通費 22,200 円 資料費 17,760 円 場所代 4,440 円
その他	78,958	ケース・マネジメント等 29,008 円(10名) 家 賃 49,950 円(3か月)
合 計	318,718	

注) フィリピンペソ (PHP) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート: 1 フィリピンペソ ≒ 2.33 円 (送金時 (2022年3月25日) の為替レート)

トンラック・アナンダ・マルガ学校の 生徒の栄養サポート



Thailand / タイ

氏名 Tungriratanagul Chintana チンタナ (3期)

所属団体 ネオ・ヒューマニスト財団

タイとミャンマーの国境地帯には、ミャンマーから移住してきた人びとが暮らしていますが、市民権をもたない人が多くいます。コロナ禍で仕事を失ってしまった人も多く、その子どもたちに対し、食事の提供を行いました。

所属組織の概要

国境地帯に暮らす子どもや、教育を受けられなかった子ども、虐待やネグレクトなど、家庭環境に課題を抱える子どもや孤児、学習に遅れのある子どもなどに、タイの教育を提供しています。



事業の目的

事業実施地域はタイとミャンマーの国境にあり、内戦によって移住してきた人が暮らしています。さまざまな文化や言語が存在し、政治的、経済的な問題や教育、健康に関する問題もあります。市民権をもたない人や、課題を抱えた子どもへの福祉的な支援は不足しています。NGOが運営するいくつかの児童養護施設では、約600人の子どもが暮らしていますが、健やかに成長し、健全な生活を維持していくためには、教育がとても大切です。そのための方法の一つとして、学校の生徒に健康的な食事の提供を行うこととしました。



活動地域

タイのカーンチャナブリー県サンクラブリー郡で事業を実施しました。この地域はタイとミャンマーの国境にあり、内戦によって移民してきたミャンマー人が以前から生活しています。

対象者

学校の生徒 157 人を対象とし、90 日間、学校で健康的な食事を提供しました（2022 年 5 月中旬から 9 月末まで）



事業の成果

- ・この事業を通して、2022 年 5 月中旬から 9 月末までの 90 日間、すべての生徒が体に良い昼食をとることができました。
- ・中学校には 45 人の生徒がいますが、週に 3 日、教師やクラスメート、友人のために協力し合って体に良い昼食を準備することで、チームワークを学ぶ機会になりました。
- ・生徒は学校で昼食の配布をサポートしました。このことによって、学校というコミュニティを尊重することを学びました。
- ・生徒は、集団と個人の違いを理解するとともに、食事の時のマナーを学びました。
- ・生徒は、お互いに調和を保ちながら生きることや、環境に配慮することを学びました。廃棄するものと肥料にするものを分別することも学習しました。



実施内容

ネオ・ヒューマニスト財団は、生活や教育などの基本的ニーズを提供することによって、都心から離れた国境地帯での人間開発を目的としています。私たちは、就学前から中学校までの157人の貧しい子どもたちに義務教育を提供すべく、トンラック・アナンダ・マルガ学校という私立学校を設立しました。生徒の多くが児童養護施設で暮らしています。彼らが身体的にも精神的にも健康な状態で卒業することが期待されています。

生徒のほとんどは、学費を全額支払うことができない貧しい家庭や、タイの国籍をもたない家庭の子どもです。子どもたちが一日に一食は健康的な食事をとれるよう、学校給食プログラムのための支援資金を得る必要があります。

2022年5月から2022年10月 まで

生徒たちへの健康な昼食の支援プログラムを実施

学校は全ての生徒に健康的な昼食を提供する必要があります。政府からは学校給食への資金援助はありません。事業実施地域のサンクラブリーは観光地であるため、いかだによる川下りや物販、ホテル業などの観光業によって収入を得ています。新型コロナウイルスのパンデミックにより観光客が来なくなったため多くの親が仕事を失い、この地域の状況を悪化させてしまいました。また、学校は9か月間収入を失ったため、学校での昼食提供に対し、資金の援助をする必要がありました。



今後の展望

- ・生徒が健康的なライフスタイルを維持するため、身体によい昼食の提供を継続します。
- ・この経験を通じて、生徒たちは健康的なライフスタイルと、調和のとれた人間関係について学ぶことができました。中学生はここで学んだことを下級生に伝えていくことができます。また、学校や地域でも、健康的なライフスタイルのための展示やキャンペーンを行いたいと考えています。
- ・私たちの学校は、貧しい人や困窮している人、無国籍の子どもたちに教育を提供しているため、今後も学外からの支援を必要としています。

収支報告

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	320,105	
その他 (寄付金)	15,129	
合 計	335,234	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
食材費	315,524	油、ソース、野菜、砂糖、スパイス代 等
光熱費	19,710	ガス代、水代
合 計	335,234	

注) タイバーツ (THB) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート: 1 タイバーツ ≒ 3.65 円 (送金時 (2022年3月25日) の為替レート)

事業の様子を動画にしましたので、ぜひご覧ください。

<https://youtu.be/lgVozriDPWY>



長期化するコロナ禍における バランスのとれた食事と セルフケアのサポート



Thailand / タイ

氏名 Malee Prakornkaew マーリー (9期)

所属団体 バーン・サバイ・ヘルス・センター

コロナ禍で新型コロナウイルス感染者の健康不安が広がるなか、健康について考えたり、免疫力を高めるための方法を学習する機会の提供を、オンラインと対面型のワークショップを通じて行いました。

所属組織の概要

病気を抱える人に対するヘルスケアサービスの提供を行っています。また、病気予防に対する知識向上のため、身体機能の保持や健康的な食事、ヨガや太極拳などの心身をリフレッシュさせる運動等を行い、心と体の健康保持のための支援を行っています。



「薬としての食」をテーマにしたワークショップ研修を開催

事業の目的

新型コロナウイルスに感染した人や濃厚接触者が、健康的な食についての知識や理解を深め、それらを日常生活に応用することを目的としています。また、得られた知識によって、コロナ禍後の状況に対応できるようにすることを目的としています。

活動地域

オンラインで実施したため、タイ全域を対象としました。

対象者

所属組織であるバーン・サバイ・ヘルス・センターのLINE公式アカウントや、マーリー（修了生）のFacebookなどを通してセンターと直接つながりのある人、センターのスタッフなどとこれまでつながりのあった人たちを対象としました。



プラットフォーム	対象者人数	
	直接つながりのある人	間接的につながっている人
1. LINE 公式アカウント	225	0
2. その他のLINEグループ (18グループ)	234	760
3. Facebook	3,445	0
合計	3,904	760

事業の成果

オンライン講座の実施や動画の作成により、参加者は免疫力向上に効果のある食品の選び方や、適切な呼吸法、深呼吸の仕方などを学ぶことができました。

参加者は学んだ呼吸法を自宅でも続け、家族にもその方法を伝えています。また、トレーニングに参加した地域ボランティアは、新型コロナウイルスに感染したことのある高齢者たちに、自分で健康づくりに取り組めるよう呼吸法を伝えており、活動の広がりを見せています。

รสชาติทั้ง 5 กับสรรพคุณในการรักษาโรค

- เผ็ด** (Spicy): กระตุ้นเลือดลม ชับความชื้น และลม สลายการอุดตันของเลือดและลมปราณ
- หวาน** (Sweet): บำรุงกระเพาะและน้ำมูก ลดการปวดทรวงอก ใช้บำรุงโรคจากภาวะพร่อง
- เปรี้ยว** (Sour): ช่วยในการเก็บพยุบ หนึ่ยวรั้ง รักษาโรคเหงื่อออกจากภาวะพร่อง ใจ ท้องเสียเรื้อรัง ปัสสาวะบ่อย ตกขาว
- ขม** (Bitter): ช่วยจัดร้อน ลดไอ แก้ท้องอืด แก้ท้องผูก จากความร้อนในตัวสูง
- เค็ม** (Salty): ช่วยสลายก้อนแข็ง ทำให้ชุ่ม รักษาผิวของระบายแก้ท้องผูก รักษาท้องอืดรอยด่างในท้อง

BannSabai

実施内容

2022年5月1日

事業立案のためのミーティング、チームワークづくり、準備

2022年5月20日

広告宣伝開始

2022年6月15日～9月30日

健康についての理解を深めるためのオンラインプログラムを実施しました。

- ・免疫力を強化するためのプログラム
- ・健康的な食事、年齢や季節に合わせた食事、機能性食品、プロバイオティクス食品等に関するプログラム

ワークショップ実施

ビデオ付きのマニュアルを作成してワークショップを実施しました。

- ・肺の力を強める体操（2分57秒）
- ・こんぶ茶をつくる（2分14秒）

ワークショップ① 2022年7月24日

「簡単にできる、きちんとした呼吸法」(呼吸の力を強める肺の運動)

デュアン・プラティープ財団と協力して、ワークショップを開催しました。財団のスタッフ、幼稚園教諭、コミュニティ・ヘルス・ボランティア、地域住民、コミュニティの委員会のメンバー等、31名が参加しました。

ワークショップ② 2022年8月15日

「お料理簡単、きちんと食べよう」

こんぶ茶やケフィア等に詳しい特別講師を招き、講義やこんぶ茶づくりの実習を行いました。参加者12名（オンライン4名、対面8名）



呼吸法を学んでいます



こんぶ茶をつくりました

2022年6月10日、7月10日、8月10日、9月10日

オンライン・チームでの月例ミーティング

今後の展望

本助成プロジェクトは終了しましたが、オンラインやソーシャル・メディアを通じて健康情報を提供することで、自己学習型のヘルスケアをサポートすることの重要性を認識しました。

将来的には、より高齢者に焦点を当てていきたいと考えています。なぜなら、タイは数年後には超高齢化社会に突入するからです。何らかの障害を誘発したり、生活の質を低下させたり、健康被害を生むことのないよう、私たちは彼らの免疫力を高めることに焦点を当て、免疫力の強化や転倒防止のための知識を得たいと考えています。

収支報告

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	300,304	
自己資金	18,925	
その他 (寄付金)	16,936	
参加費	9,125	
合 計	345,290	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
チームワークづくり、準備	62,780	コーディネーター手当 36,500 円 (4名分) ミーティング経費 4,380 円 (4名分) ボランティア交通費 14,600 円 (4名分) コーディネート費 7,300 円
オンライン学習物品	62,050	オンライン・アプリ月額費 等
オンラインプログラム (健康に関する知識)	58,400	メディア制作手当 29,200 円 ボランティア交通費 14,600 円 (4名×2回分) コーディネート費 14,600 円
オンライン・ワークショップ 2回	71,540	謝礼 29,200 円 (2名×2回分) 会議室賃料 14,600 円 (2回分) ミーティング経費 13,140 円 ボランティア交通費 14,600 円 (4名×2回分)
オンライン・チーム月例会議	30,660	ミーティング経費 8,760 円 (2回分) ボランティア交通費 14,600 円 (4名×2回分) コーディネート費 7,300 円
全社協への報告準備	59,860	メディア制作費 10,950 円 翻訳代 18,250 円 ミーティング経費 8,760 円 (2回分) ボランティア交通費 14,600 円 (4名×2回分) コーディネート費 7,300 円
合 計	345,290	

注) タイバーツ (THB) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート: 1 タイバーツ ≒ 3.65 円 (送金時 (2022年3月25日) の為替レート)

事業の様子を動画にしましたので、ぜひご覧ください。

<https://youtu.be/w6SpcqqVytK>



遊びの支援を通じた 児童の発達促進と家族支援 (新型コロナウイルスの影響への対応)



Thailand / タイ

氏名 Duangjai Saichompoo ピック (22期)

所属団体 シェアリング・ラブ・ファミリー・グループ

新型コロナウイルスにより、9割以上の学校や児童発達センターが閉鎖され、子どもの発達に影響が及ぶとともに、家族の負担が増加するなか、遊ぶ機会が減った子どもたちに対して遊具の支援を行いました。

所属組織の概要

さまざまな学びの機会を通じて子どもや若者を成長させるなど、遊びを通じた児童発達支援等を行っています。子どもたちの創作活動を支援するためのワークショップを開催するほか、子どもや親、高齢者を対象に、健康に対する意識を高めるための研修等も行っています。



入院中の子どもにおもちゃを寄付したり、
つくったりしています



子どもの発育調査をしています

事業の目的

- ・遊びの支援をすることで、コロナ禍で遊ぶ機会のない子どもたちの、年齢に応じた成長を促進します。
- ・子どもの年齢に適した遊びを促進するための遊具を提供します。
- ・家族や地域社会の関わりを求めながら、リモート環境での子どもの発達を支援します。

活動地域

ナコーンラーチャシーマー県、パークチョン郡の健康増進病院 5 か所で実施しました。

対象者

タイの保健省のもとにある健康増進病院 5 か所と 250 人の幼児、その家族を対象としました。



事業の成果

- ・対象とした 5 か所の健康増進病院には、子どもの発達を促進するための遊びのスペースがあり、子どもたちや家族が利用しています。
- ・年齢に応じた遊びを通して、250 人の子どもたちが発達への刺激を受けました。新型コロナウイルスの状況下で影響を受けた 250 家族が、遊具を使って自宅で遊ぶことができました。子どもたちは年齢に応じた成長をすることができました。



「Pun-Rak Play Box」の写真とそれを受け取る子どもたち

実施内容

2022年6月

プランニング会議

2022年6月

おもちゃ、絵本、募金などの寄付を集めるためのイベント実施

2022年6月～7月

遊具購入や送料捻出のため、ソーシャルメディアでの募金活動実施

2022年7月

健康増進病院 5 か所との調整

2022年7～8月

「Pun-Rak Play Set」(遊び道具) 5 セット購入の調整

2022年8～10月

「Pun-Rak Play Box」(遊び道具) 250 箱購入の調整

2022年9～11月

「Pun-Rak Play Set」と「Pun-Rak Play Box」の配布

2022年12月

「Pun-Rak Play Set」と「Pun-Rak Play Box」の評価



今後の展望

- ・新型コロナウイルスの状況はまだ先が見えないため、メディアを利用して子どもたちや家族と交流する活動を展開する必要があります。
- ・新型コロナウイルスに対するセルフケアと予防について理解を深めるための活動を企画します。
- ・インターネットやメディア、対面での学習活動を通じて、保護者が子どもの学習を自然にサポートできるよう、支援します。

収支報告

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	300,303	
自己資金	54,750	
その他 (寄付金)	91,250	
合 計	446,303	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
遊具代	273,750	「Run-Pak Play Set」 (本棚、絵本など) 「Run-Pak Play Box」 (250箱:おもちゃなど)
旅 費	18,250	
運送費	91,250	
給 料	54,750	
その他	8,303	ミーティング、コーディネート費等
合 計	446,303	

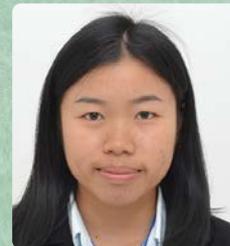
注) タイバーツ (THB) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート: 1 タイバーツ ≒ 3.65 円 (送金時 (2022年3月25日) の為替レート)

ピックさんの取り組み写真は、動画で見ることができます。

<https://youtu.be/OTjIw9yKbqw>



障害児の職業訓練



Thailand / タイ

氏名 Ratchanee Jomsawan ニー (36期)

所属団体 若者のためのルアム・ミット財団

所属する団体では、以前から障害児やその家族の社会的スキル向上のために職業訓練を行い、成果を上げてきました。修了生助成事業による支援を受けて、ニーズ把握により支援が必要であることが判明した地域に対しても、新たに事業を実施しました。

所属組織の概要

障害のある子どもやその親に、教育支援や職業訓練を行っており、家庭訪問による子どもたちの発育の支援も行っています。また、薬物、HIV、性教育、人身売買等に関する情報提供も行っています。



事業の目的

チェンライ県の「家族による地域の障害児の育成とリハビリテーション」プロジェクトは、10年以上にわたって各郡で行われ、脳性麻痺や知的障害のある子どもたちを支援し、社会的スキルを向上させてきました。障害のある子どもやその家族が社会に出て人と接したり、訓練を受けたりしています。多くはタイ語を話すことのできない少数民族で、日常生活の困難さや経済的な問題等の同じ課題を抱えています。このプロジェクトにより、かつては床に寝転んでいるだけだった子どもたちが日常生活を送ることができるようになり、外部との交流等によって生活の質が向上しました。

こうした成果から、新たな地域で、障害児とその家族のために、職業スキル習得と所得創出のためにプロジェクトを実施しました。

活動地域

チェンライ県ムアン郡の南東に位置するファイサック地区で、プロジェクトを実施しました。この地区の人口は19,270人で、31の村があり、4,878世帯が暮らしています。主な職業は農業と牧畜です。

対象者

所属する財団の調査と、日頃の地域活動を通して得た情報から、上記地域に、社会的な支援が必要な障害者や、継続的な訓練等を受ける機会がない知的障害者がいることがわかりました。そして、地域から少なくとも12名の障害者を支援してほしいとの要請がありました。脳性麻痺の子どもたちと知的障害のある子どもたちへの支援の重要性とニーズがあったため、全社協からの支援を受けて、障害児20名とその親ら20名の支援を行うことにしました。



事業の成果

- 障害児とその家族の職業スキルを高めることができました。
 - ・障害児とその家族は、天然の絞り染めや手作り本の作成、苗木の育て方に関する知識を得ることができました。また、プロジェクト終了時には、こうした技術を向上させることができました。
- 障害児とその家族は、所得を生み出すことができました。障害児の家族は、村の市場で苗木を売ることでお金を稼ぐことができました。
- 障害児の社会的・情緒的・心理的発達に寄与しました。
 - ・障害児とその家族は活動に興味を持ち、楽しみ、協力し合うことができました。
 - ・自分の成し遂げた作業を誇りに思うとともに、参加者同士の交流を深め、時間を有意義に使うことができました。
 - ・参加者全員がリラックスすることができました。



実施内容

2022年5月13日～9月20日

小さな植物を種から育てるワークショップを行いました。



2022年7月15日～9月19日

天然の絞り染め (pha mat yom) をつくりました。



2022年8月19日～9月21日

絞り染めを使って手作りノートを作成しました。



今後の展望

- ・ 今後は月に一度、家庭訪問をして子どもたちの発達をサポートするとともに、日常生活の支援をします。
- ・ 所得の創出を促進するために、たとえばほうきづくりなど、子どもたちのスキルの状況に応じた支援を行い、ファイサック地区の障害児と家族を支援していきます。
- ・ ファイサック地区の障害児とその家族のため、月に1回、学習センターで活動を行います。
- ・ Facebook、LINE、Tik Tok などを通じて障害児とその家族の手工芸品を広報します。

収支報告

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	300,304	
自己資金	479	
合 計	300,783	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
調整費	11,703	
障害児家族の交通費	65,700	20 家族 × 3 回
昼食 (弁当)	43,800	40 人 × 3 回
おやつ・飲み物	21,900	40 人 × 3 回
謝礼	70,080	2 名 × 3 回
交通費	21,900	
備品調整費	65,700	40 人 × 3 回
合 計	300,783	

注) タイバーツ (THB) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート: 1 タイバーツ ≒ 3.65 円 (送金時 (2022 年 3 月 25 日) の為替レート)

高齢者のメンタルヘルスと健康増進



Sri Lanka / スリランカ

氏名 M.Ariyadasa アーリヤダーサ (4期)

所属団体 サハナサラナ財団

糖尿病等の病気を患っているものの、生活に困窮しているなどの理由から自分の健康状態を把握していない人たちに対し、スリランカ保健省の協力を得て健康調査を実施しました。

所属組織の概要

家庭環境に恵まれない子どもに対する社会的・文化的気付きの創出のほか、乳幼児の健康のためのリハビリテーション、児童福祉施設・障害者福祉施設・高齢者福祉施設の設立、若者向けのキャリア形成や所得創出プロジェクト等を実施しています。

事業の目的

事業を実施した地域の高齢者の多くは、自分の健康状態を知りません。この地域には健康をチェックするのに十分な施設がなく、また生活に困窮しているため、治療を受けることもできません。そのため、適切な医療を受けておらず、薬の投与もしていません。さらには、病気についての知識がないため、病院に行くことを嫌がる人も多くいます。

そのため、糖尿病、高コレステロール、高血圧を患っている人に診療所を提供し、またメンタルヘルスを改善するためのさまざまな活動を行うことにより、高齢者が精神的・肉体的にも健康状態を改善することを目的としました。

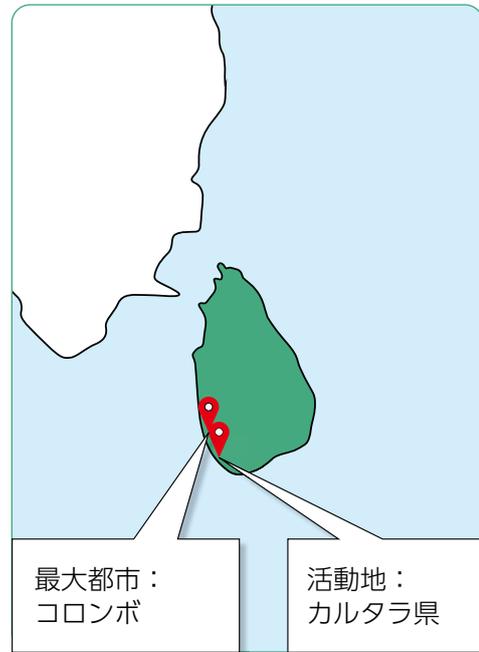


活動地域

生活に困窮している人が多く暮らす、スリランカのカルタラ地区で実施しました。

対象者

カルタラ地区に住む家族への聞き取り等により財団メンバーが健康状態を把握できた人のなかから、200名の参加者を選び、実施しました。



事業の成果

- ・カルタラ地区のコミュニティが、自分たちの健康レベルを上げるために活動することができました。
- ・ストレスを最小限にするために、地域が一緒になってさまざまな活動を行うことができました。
- ・地域住民の幸福度・満足度があがりました。
- ・カルタラ地区のコミュニティに対し、医薬品の提供を含む医療的な支援を行うことができました。



実施内容

糖尿病、高コレステロール、高血圧を患っている人の無料診療所を、2022年5月1日に、1日間実施しました。保健省の支援により、医師と看護師を確保しました。また、5人の僧侶と2人のカトリック司祭による説教の時間を設け、宗教的視点による改善も行いました。

【日程】

8:00 ~ 9:00

参加者の受入、登録

9:00 ~ 10:30

メンタルヘルスに関するプログラム

10:30 ~ 12:30

能力開発プログラム

13:30 ~ 15:00

参加者のもつ能力の見極め

メンタルヘルスの観点から、伝統的な音楽パフォーマンスを実施しました。歌や踊りなどの趣味を活用して精神的な安定を図りました。

15:00 ~ 15:30

利用者情報のデータベース化

対象者をデータベースに登録しました。数カ月後に再び連絡をとって健康状態を確認するとともに、適切な治療先を紹介するために実施しました。

15:30 ~ 16:00

お楽しみプログラム実施、閉会

8:30 ~ 16:00

ヘルスクリニック

プログラムと並行して実施しました。



今後の展望

今回のプロジェクトの参加者には、2025年までにサハナサラナ財団による家庭訪問を行い、引き続き彼らの健康状態の確認を含めた、生活の質向上等、さまざまな指導・支援を提供したいと考えています。

収支報告

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	169,193	
自己資金	487	
合 計	169,680	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
会場設営費	25,200	椅子/テント/スピーカーのレンタル、 交通手段手配
食費	94,500	参加者全員の朝食と夕食
医療従事者関連	12,600	医師/看護師交通費、設備手配
高齢者選抜	12,600	招待状送付
ビデオ・写真	12,600	全社協報告用ビデオ・写真記録
スタッフ手当	1,260	1人分
寄付	6,720	高齢者に説教する仏教僧侶、 カトリック司祭への寄付
その他	4,200	
合 計	169,680	

注) 送金額 (日本円) と受領額 (LKR) から算出 (送金時点 2022年3月25日)
換算レート: 1スリランカルピー (LKR) ≒ 0.42円

※アーリヤダーサ氏は、2023年4月に逝去されました。

スマイル～バック・トゥ・ライフ ～学習障害のある子どもたちの識字力向上～



Sri Lanka / スリランカ

氏名 Nilani Chandrika Weragoda ニラーニ (5期)

所属団体 シットタルタ児童発達財団

新型コロナウイルスのパンデミックのため、スリランカでは国がオンライン教育を実施しましたが、オンライン環境を整えられる家庭は半数に満たない状況です。そのため、そうした環境を整えられない貧困層に対し、学習環境を提供しました。

所属組織の概要

ニラーニ氏が創設した財団で、子どもの発達プログラムや、識字率向上のための読書プログラム、幼稚園教諭等に対する研修等を実施し、スリランカの子どもたちが良い環境の中で楽しく、前向きに成長できるよう、支援しています。



事業の目的

スリランカの状況は、新型コロナウイルスの影響と政治による情勢不安のため、深刻な状況に陥っています。市場では必需品の不足が深刻で、貧困層や中産階級が暮らす地域では、ほとんどの貧困層が収入源を失ったため、日常生活を維持することに苦勞しています。スリランカ教育当局による対応は不十分で、村の子どもたちの多くが学習の機会を失いました。新型コロナウイルスのパンデミックにより、学校は2020年から2021年まで閉鎖され、教育当局はオンラインでの授業を実施しましたが、貧しい家庭はそうした設備を整えることができず、教育を受けることができませんでした。そのため、2年分の学習ができる環境を整え、識字能力を向上させることを目的に、本事業を実施しました。

活動地域

スリランカ西部州ガンパハ郡アッタンガラ地方のダンヴィラナ、ヴィヤレゴダ、メダワッタの3つの村に住む、生活基盤の弱い家庭の子どもたちに対して実施しました。

対象者

対象地域の3つの村の子どもたちは、毎週日曜日にジナラジャ寺院の宗教学校（仏教学校）に通っています。財団では、設立当初からこのお寺でさまざまな地域開発と児童支援プログラムを実施してきました。そのため、この日曜学校を通じて生活に困窮する子どもたちのためにプログラムを実施しました。

74人の子ども、52人の親、15人のコミュニティ・リーダー、8人の日曜学校教師、4人の小学校教諭、3人の政府の役人が参加対象となりました。



事業の成果

この事業を通して、以下の成果を得ることができました。

- ・ 学習障害の子どもに対する教師の対応力向上
- ・ 親や地域による、学習障害のある子どもへのシンハラ語やタミール語、英語の学習の積極的な支援
- ・ 学習障害の子どもに対する実践の普及

さらに、以下の成果を得ることができました。

- ・ 財団の保有する図書館と識字率向上プロジェクトを寺院と組み合わせて「仏教ソーシャルワーク・センター」とし、所有権を関係者の共有にすることになりました。
- ・ 日曜日の仏教学校に通う子どもの人数が増えました。
- ・ 学習障害のある子どもや学習に遅れのある子どもは熱心にプログラムに参加しました。
- ・ 子ども、保護者、地域が今回の取り組みを受け入れ、希望をもつことができました。



実施内容

3月～4月

教師の訓練および教材の開発

教師向けの教材を開発しました。教材には、字を読むことに困難を抱える子どもたちの評価ツールと、支援の方法が記載されています。四半期ごとにピアサポート・ミーティングをするなど、教師の継続的なサポートもしています。

4月24日

読む力のレベルを測定

子どもたちの96%が、教科書の簡単な読み書きにさえ苦労していることが明らかになりました。そこで、子どもたちを組分けして補講授業を行いました。

5月8日

保護者、コミュニティ・リーダー、政府の役人への意識向上プログラム実施



5月～10月

補講授業の開始

5月～12月

児童クラブの設立、支援

読書クラブを設立し、子どもたちが自らの創造性を発揮する機会をつくりました。毎月、子どもと保護者を対象に読書イベントを開催しました。多くは生活に困窮する家庭の子どもだったため、寺院と協力して、お茶や食事を提供しました。



6月～12月

子どもリーダーのワークショップ実施（毎月）

7月～10月

コミュニティ・ライブラリー、ホーム・ライブラリーの設置

現地の言語で書かれた子ども向けの本をつくり、地域、日曜学校、児童クラブなどでの読書活動に利用できるようにしました。そして子どもたちに、家庭で大人との読書習慣をつけること、本を積極的に読むことを教えました。

8月～12月

コミュニティ・レベルでの読書イベントの実施

5月、9月、12月

評価、文書作成



今後の展望

プログラム実施中に政治的な問題が発生し、国の情勢が悪化しましたが、こうした希望のもてない時期にこのプロジェクトを実施することができました。継続的に実施していくことが重要で、今後はサポート・サークルを設立し、保護者や地域の関与を強化していく必要があります。

収支報告

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	333,545	
自己資金	172,845	
その他 (寺院の寄付)	50,400	
その他 (コミュニティの寄付)	12,600	
合 計	569,390	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
教師の訓練・教材の開発	138,852	スタッフ手当 25,200 円 交通費 19,656 円 (12人分) 機材・教材費等 93,996 円 (4名分)
ベースラインとなる読む力の測定	26,838	交通費 9,828 円 (12名×3回) スタッフ手当 8,400 円 (2回分) 教材費等 8,610 円
コミュニティ・リーダー等 意識向上プログラム	57,540	スタッフ手当 6,300円 (3回分) 機材・教材費等 51,240 円
補講授業	98,112	交通費 65,520 円 (8か月×3名) おやつ代 16,632 円 教材費 15,960 円
リーダー・ピアサポーター研修	101,930	昼食・おやつ代 47,880 円 (20名分) スタッフ手当 25,200 円 (2日×3回) 機材・教材費等 28,850 円
コミュニティ・ライブラリーの 設置	87,360	棚 (2 本) 33,600円 本購入費 53,760 円
読書イベントの実施	20,244	子どもへのお土産代 14,280円 (68名分) 教材費 5,964 円
評価・文書作成	38,514	スタッフ手当 8,400 円 (2日分) 教師交通費 9,828 円 (12名×3日) 昼食・おやつ代 9,576 円 (2日分) 機材・教材費等 10,710 円
合 計	569,390	

注) 送金額 (日本円) と受領額 (LKR) から算出 (送金時点 2022 年 3 月 25 日)
換算レート: 1 スリランカルピー (LKR) ≒ 0.42 円

新型コロナウイルス感染症等の感染予防対策を備えた学生寮食堂の整備



Sri Lanka / スリランカ

氏名 W.G. Sanjeewa Aruna Kumara Rajapakshe サンジーワ (23期)

所属団体 センカダガラ視聴覚障害者のための学校協会

新型コロナウイルス対策の施設整備が求められますが、政府からの支援はありません。学校として疾病対策をし、学生寮の食堂をより快適な環境にすることで、食堂を活用した新たな活動の機会の提供へと、取り組みを広げました。

所属組織の概要

1年生から11年生までの聾盲の生徒が在籍する特別支援学校です。義務教育修了認定試験に向けた準備や職業訓練、スポーツ、アート、キャンプ、手話上達プログラム等を実施しています。また、聾盲の子どもを含む62名が学生寮で暮らしています。



事業の目的

学生寮の食堂は古く、新型コロナウイルスの疾病対策を備えていません。そのため、食堂を改修し、呼吸器系疾患の予防をするとともに、特別な支援を必要とする学生にとって魅力的で、楽しく、環境の良い場所にすることが目的です。また、それによって子どもたちは食事のマナーを学ぶとともに、食堂を活用したさまざまな活動を実施し、子どもたちに多様な機会を提供します。



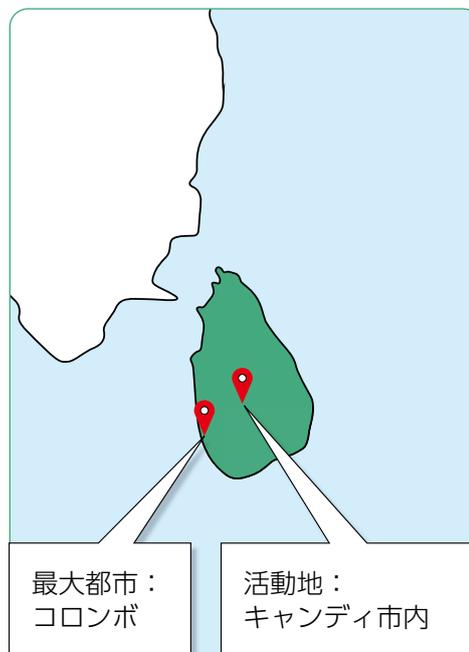
改修前の食事風景

活動地域

キャンディ市内にある特別支援学校であるドダムワラ聾盲学校で行いました。

対象者

ドダムワラ聾盲学校を利用する生徒、寮生のほか、学生寮のスタッフや学術スタッフが、このプロジェクトによって業務負担軽減の効果を得ることができます。また、生活環境が良くなることで、子どもたちの成績向上等につながるため、両親の満足度向上にもつながります。



事業の成果

- ・現在は新型コロナウイルスの蔓延が抑制されていますが、同様の状況が再び訪れたときに、変わらず食事の提供ができる環境を整えることができます。
- ・計画していた以上に食堂の整備が進み、また外観も新しくすることができました。それにより、目の見えない子どもや耳の聞こえない子どものプライドを高めることができました。
- ・地元の寄付者の支援により、子どもたちが手を洗ったり食器を洗ったりする洗い場を設置することができました。
- ・子どもたちは食堂で食事のマナーを学び、自分たちで掃除をするようになりました。それにより、協力して役割を担うようになりました。
- ・食事や休憩の合間に食堂で課題を行うこともでき、子どもたちは熱心に取り組めるようになりました。



実施内容

2022年3月1日～16日（15日間）

見積もり

2022年3月21日

入札

2022年3月27日～4月4日

家具を購入して食堂に設置

2022年4月17日～5月20日

改修（古い食堂の塗り替え、掃除）

2022年5月23日

テーブルと椅子の搬入

2022年6月1日～6月10日

食品の準備、食事の配膳、清掃、良い食習慣についての訓練

2022年6月10日～

子どもたち自身による日々のプログラムの運営

2022年9月7日

ホテルでの食事のマナー研修

2022年9月8日～

食堂を、子どもたちが宿題をやったりワークショップしたりするときに活用しています。



食堂の改修工事をしています



改修後の食堂



ホテルの協力を得て食事のマナーを学びました

今後の展望

現在、子どもたちをグループに分け、家事の分担をしています。この経験は大人になっても役に立つため、将来的にとっても良い経験になります。

また、今後も食堂でのワークショップや講演会の実施等を通して、子どもたちに多くの経験の機会を提供していきたいと思えます。

収支報告

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	258,088	
自己資金	93	
合 計	258,181	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
備品購入費	219,353	テーブル 10 卓、椅子 42 脚
改修費	16,937	壁の塗装、シンナー、塗装用具、カーペット、消毒剤 等
旅費	1,890	
スタッフ手当	10,500	2 人 × 5 日間
消耗品等	9,501	子どもたちのエプロン等
縫製費	0	無料奉仕
食習慣および テーブルマナー研修	0	無料奉仕 (Mahawali Rich Hotel)
合 計	258,181	

注) 送金額 (日本円) と受領額 (LKR) から算出 (送金時点 2022 年 3 月 25 日)

換算レート: 1 スリランカルピー (LKR) ≒ 0.42 円

所得創出とソーシャル・ヘルスサービスの提供 および子ども・成人・高齢者の健康増進



Indonesia / インドネシア

氏名 Yayat Hidayat ヤヤット (22期)

所属団体 光の地域福祉財団

新型コロナウイルスのパンデミックによって所得を減らした人びとに、農業や牧畜、手工芸等の機会を提供しました。また、子どもから高齢者までを対象に、ソーシャル・ヘルスサービスを提供したり、ストレス・マネジメントを行ったりしました。

所属組織の概要

所属する「光の地域福祉財団」では、低所得家庭の所得向上の取り組みを行っています。また、子どもから高齢者までを対象とした社会サービスの促進を行っています。

事業の目的

畜産業者や農村家族、失業者の所得を増やすことを目的とします。

また、子どもから高齢者までを対象としたソーシャル・ヘルスサービスの提供等を通して、健康増進することを目的とします。



健康について考えるキャンペーンの実施

活動地域

西ジャワ州スメダン県チマラカ郡シティムン村およびチアンジュール県カラントゥンガ郡マレベル村で実施しました。

シティムン村の総面積は2.13km²、人口は5,696人、人口密度は0.5人/km²で、人口のほとんどは農民です。

マレベル村の総面積は214ヘクタール（うち91ヘクタールは湿地）で、人口は15,181人です。



対象者

シティムン村では5名の畜産業者、5名の米作農家、40名の子ども、10名の高齢者を対象としました。マレベル村では、40名の子ども、50名の成人、40名の高齢者、10名の失業者を対象に行いました。

事業の成果

- ・羊飼いへの支援をすることで、畜産業者の所得が向上しました。利益は施設と分けましたが、その利益から自分の羊を持つことができました。
- ・農村家族に田を貸し、そこでできた米を販売しました。利益を施設と分けることで、農村家族の所得が増えました。
- ・失業者は服の縫製事業や手工芸で所得を増やすことができました。
- ・つくった服や肥料、手工芸品等をお売ることができました。
- ・子どもから高齢者まで、多くの世代がソーシャル・ヘルスサービスを受けることができました。
- ・事業対象者は催眠療法によってストレスを管理できるようになりました。



羊飼いへの支援



縫製訓練の様子

実施内容

2022年2～3月

関係者との調整

2022年3～4月

地元資源の査定（ミシンの指導者、手工芸訓練を実施するための指導者、材料、催眠療法士、コミュニティ・ヘルス・センター）

2022年4月

関係者ミーティング

2022年4月

高齢者、成人向けの手工芸訓練実施

2022年5月

唐辛子の植え付け訓練

2022年6月

失業者に服の縫製訓練を実施

2022年5月～2023年3月

稲の植え付け訓練実施

2022年4月～2023年3月

服の製作、牧畜、手工芸品製作

2022年4月～2023年3月

市場調査、販売促進活動実施

2022年4月～2023年3月

子どもから高齢者までを対象としたコミュニティ・ヘルス・センター活動実施

2022年4月～2023年3月（毎週）

宗教活動やスポーツなどの高齢者向けのソーシャル・サービスを実施するとともに、必要な支援を実施

2022年2月～2023年3月（毎週）

催眠療法活動の実施

2022年2月、5月、8月、11月

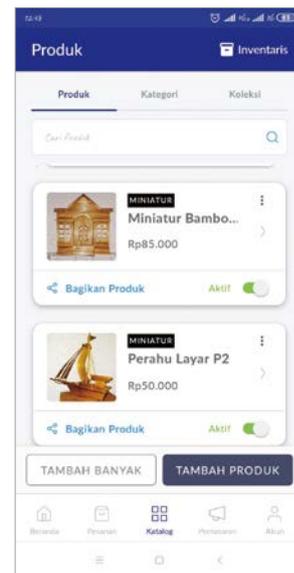
関係者ミーティング

2022年1月、3月 2022年4月、12月 2023年3月

モニタリング・評価会議

2022年11月以降

対象地域であるチアンジュール県が、11月のインドネシア・ジャワ島西部地震で被害を受けたため、支援活動を実施



手工芸品販売のオンラインサイト



地震被災者への支援

今後の展望

- ・手工芸品のマーケティングは比較的容易なため、手工芸品の訓練プログラムをより発展させていきたいと考えています。しかし、そのためには金銭面での多くのサポートが必要です。
- ・催眠療法は高齢者や青少年の身体的・精神的健康の改善に非常に効果的なため、一層発展させていく必要があります。
- ・対象地域であるチアンジュールで、2022年11月に地震が発生しました。そのため、急遽、被災者への支援をしました。食料や衛生施設が限られた避難所で生活をしているため、引き続き支援をしていく必要があります。

収支報告

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	281,756	
自己資金	203,844	
Darul Iman Amaliah 財団資金	136,000	
その他 (助成金、寄付金)	160,000	
売上	139,200	固形廃棄物、羊、手工芸品、米、縫製品、有機肥料
合 計	920,800	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
関係者との調整等	24,800	
手工芸訓練	48,000	謝金 12,000 円(1名×1か月) 材料 12,000 円 ミシン 24,000 円
高齢者・失業者向け訓練	36,000	謝金 16,000 円(6 か月) 材料費 20,000 円
牧畜 (羊)	88,000	羊小屋 40,000 円(2ユニット) 羊 48,000 円(3匹)
米作	56,000	肥料 16,000 円 運営費 40,000 円
ヘルスサービス	120,000	保健衛生官 40,000 円(のべ10回) 栄養食品 80,000 円(400パック)
催眠療法	40,000	10 か月間
高齢者向けソーシャルサービス	80,000	50 人×2 回
その他	148,000	会議室代等 39,200 円 スタッフ手当 96,000 円(1名×8か月) 文房具 12,800 円
地震被災者への支援	280,000	ユニセフからの衛生キット配布、米、麺、ミネラルウォーター、テント、毛布
合 計	920,800	

注) インドネシアルピア (IDR) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート: 1インドネシアルピア = 0.008 円 (送金時 (2022年3月25日) の為替レート)

児童・家庭相談センター設立のための トレーナー研修プログラム



Indonesia / インドネシア

氏名 Nandang Noor Rachmat. H ナンダン (23期)

所属団体 サウダラ・セジワ財団

新型コロナウイルスのパンデミックによって、新しい生活習慣が求められるなか、保育園児のさまざまなリスクを減らすため、保育園の先生へのトレーニングプログラムを実施しました。

所属組織の概要

心理的・社会的な課題を抱える家族に対する相談対応、ネグレクトの状況にある子どもや路上で働いている子どもの保護、学習プログラムの提供等を行っています。また、災害時の対応チームの組織化や障害児の支援等も行っていきます。



親に心理的・社会的な支援をしています

事業の目的

- ・ コロナ禍でeラーニングの取り組みが広がっていますが、アプリの頻繁な使用など子どもたちへのリスクが心配されるため、家庭でeラーニングする際の留意点について研修します。
- ・ eラーニングに関するアプリやソフトについての情報を提供し、eラーニングに対する保育園の先生の能力を向上させます。
- ・ 対面学習に対する先生の能力を向上させます。
- ・ 子どもや親の心理的・社会的問題に迅速・安全に対応するため、学校や保育園に児童・家庭相談センターを設立するよう奨励します。

活動地域

対象地域はバンドンにあり、都市から遠く離れた地域や、田園地帯です。田園地帯では、学校の先生に対する能力開発活動がほとんど行われていません。しかし、この田園地帯には約40か所の保育園があります。そのうち30か所は活発に活動していますが、10か所はあまり活発に活動していません。



対象者

この活動の対象者は以下の2つに分けられます。

- ・ 早期幼児教育を実施する30か所・30名の保育園の先生と、子どもと母親のグループ
- ・ 先生の学習支援能力向上によって良い影響を受ける園児1,500名（保育園30か所×50名）

事業の成果

- ・ 保育園の先生40名が、トレーナーによる研修によって、子どもたちが楽しく学習するための知識と技術を身に付けることができました。
- ・ 保育園の先生40名が、ストレスや個人的なプレッシャーを受けた場合に備え、自己治癒法を身に付けることができました。
- ・ 教師の学習支援力向上の良い影響を受け、保育園の子どもたちが、より熱心に活動に参加することができました。
- ・ 保育園の管理者は、カウンセリングによって、心理的・社会的問題に対応することの重要性を認識するようになりました。
- ・ 保育園の母親代表40人は、家で勉強したり遊んだりする子どもたちに対し、圧力をかけたり威圧したりすることなしに、どのように寄り添うかについての研修を受けました。



実際のおもちゃを使って、学習技術の開発について研修を受けています

実施内容

2022年4月 準備期間

保育園で起きている問題の確認（評価）

新型コロナウイルスのパンデミックによって保育園が直面している問題を確認しました。



2022年5～11月 実施期間

- ・家でeラーニングを楽しむための技術・方法についての研修実施
- ・家でeラーニングを行う際のオンライン・アプリの使い方についての研修（2セッション）実施
- ・対面学習での学び方についての研修実施
- ・保育園で児童・家庭相談センターを運営する方法についての研修実施
- ・子どもや高齢者、障害者が適切なライフスタイルを築いていくためのパンフレット等を、子どもや障害者に関心を持ってもらえるよう工夫して作成し、配布



評価（毎月実施）

読書クラブを設立し、子どもたちが自らの創造性を発揮する機会をつくりました。毎月、子どもと保護者を対象に読書イベントを開催しました。多くは生活に困窮する家庭の子どもだったため、寺院と協力して、お茶や食事を提供しました。

2022年12月31日

最終評価



子どもの勉強を見るときなどに、親がどのように関わるか研修をしています

今後の展望

新型コロナウイルスのパンデミックの影響が減少し始め、対面学習に戻りつつありますが、引き続き教師の資質向上に努めていきます。オフラインの授業で精神的なプレッシャーを感じていた子どもや、複雑な問題に直面し大きな負担を抱えている教師が、楽しく学習することで全員が幸せになることが目標です。

この研修に参加した人の結果を引き続きモニタリングし、オンライン学習と対面学習の両方を活用して楽しく学習ができるようにします。私たちが実施した研修が、地域の教育当局によって継続されることを望んでいます。

収支報告

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	281,756	
自己資金	21,444	
その他 (寄付金)	24,000	
参加費	56,000	
合 計	383,200	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
準備期間	16,000	保育園への初期訪問による問題点の確認経費
研修費用	319,200	トレーニングルーム賃料56,000円(7回分) LCDプロジェクター賃料16,800円(7回分) サウンドシステム賃料16,800円(7回分) トレーナー手当 84,000円(2名×7回) 訓練キット 56,000円(40名×7回) その他、消耗品等 89,600円
その他	48,000	保育園用パンフレット作成代 16,000円 輸送費 20,000円 文書作成代 12,000円
合 計	383,200	

注) インドネシアルピア (IDR) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート: 1 インドネシアルピア ≒ 0.008 円 (送金時 (2022年3月25日) の為替レート)

事業の様子を動画にしましたので、ぜひご覧ください。

<https://youtu.be/GPZen7sEPsc>



資 料

令和 4（2022）年度修了生福祉活動助成事業 （アジア社会福祉従事者研修修了生助成）

実施要綱

2021年11月1日

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 国際部

1. 趣旨・目的

本事業は、アジア社会福祉従事者研修修了生（以下「修了生」）が行う社会福祉活動（事業）等への助成を通じて、アジアの社会福祉の発展に寄与することを目的とする。

2. 助成対象及び助成条件

（1）助成対象

- ・本事業は修了生の活動組織が助成を活用して新しい事業活動を立ち上げたり、様々な福祉ニーズに対応したりすることに資するための助成事業である。団体の日常的な運営等に充てるものではなく、上記の目的に沿った特定の活動への助成であることに留意すること。新規事業だけでなく、すでに助成を受けた事業で、継続するものや関連するものでも可とする。ただし、同一団体または修了生の連続した申請は2年を上限とする。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、既存の事業実施や団体運営に支障が生じている場合、その課題の解決や状況の改善に資すると認められる助成申請についても対象とする。

（2）事業の実施者

原則として、以下の活動（事業）を助成対象とする。

- ①修了生所属団体が実施する社会福祉活動（事業）。
- ②修了生グループが協力して行う社会福祉活動（事業）。

（3）助成条件

以下のいずれの項目も満たしていること。

- ①活動（事業）の目的が明確で、具体的な成果が期待できるもの。
- ②活動（事業）の運営に関して、修了生が必ず関わっていること。
- ③修了生所属団体の代表者が認めたものであること。
- ④期限までに所定の様式により報告が行えること。

*なお、2021年度に助成を受けた団体については、当該助成事業の事業報告書（事業が完了していない場合は中間報告書）が全社協に提出されていることを条件とする。

(4) 助成対象者、助成事業実施団体の責務

- 修了生は、事業の実施者（担当者）として責任を負う。
- 国際部への連絡、申請書、事業報告書等の書類の提出は、修了生の仕事とする。国際部からの照会に対しては、可及的速やかに回答すること。
- 所属団体代表者や施設長には、事業を適正に運営する責任が発生する。
事業の申請書（計画書）・報告書は、団体代表者・施設長が必ず確認し、サインをすること。サインのないものは、申請を認めない。
- 助成金は、アジアの社会福祉の向上に心を寄せる日本国内の多くの支援者（個人や福祉団体等）からの拠金によるものである。修了生や所属団体は、それらの支持者の意思に誠実であることが求められる。そのため、助成金の適正な執行、種々の締切日に留意し、中でも支援者に対する事業の成果を適切に行うこと。

3. 2022年度助成金総額

3,000,000円程度を予定。ただし、コロナ禍に伴う課題解決に係る助成申請の状況によっては、総額を上回る額を助成することも検討する。

4. 1件あたりの助成金額

原則日本円で30万円を上限とする。

5. 活動（事業）実施期間

2022年4月から2023年3月までに実施される活動（事業）を原則とする。

次年度以降も継続して行われる事業や1年以上の長期間のプログラムも可とするが、その場合は、あらためて助成を申請し、審査により決定する。

6. 申請者

申請者は母国で福祉活動に従事する修了生とする。

7. 申請・申し込み（手順）

助成を希望する修了生は、別添の①申請書様式に必要事項を記入し、②修了生本人の活動状況がわかる写真を添付のうえ、全社協国際部に提出する。

8. 申請書類の締切

2022年1月4日（火）

9. 審査および結果通知

- (1) 申請案件については、助成金額も含め全社協「国際社会福祉基金委員会」で審査を行い決定する。申請者全てに助成されるわけではないことに留意すること。
- (2) 審査にあたっては、十分な成果が期待できる活動（事業）であることを重視する。
- (3) 助成の可否については、2022年3月末までに、申請した修了生および修了生が所属する団体の代表者に通知する。なお、審査結果によっては、助成決定額が希望額を下回る可能性がある。

10. 書類の提出

次の書類を全社協国際部に提出すること。

- (1) 助成金を受領したとき : 領収書
- (2) 助成金による事業の終了後 : 事業報告書

11. 連絡先（問い合わせ、申請、書類提出）

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 国際部（担当：勝俣）

Japan National Council of Social Welfare, International Division (Ms. Katsumata)

4F Shin-Kasumigaseki Bldg., 3-3-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980, Japan

Tel: +81-3-3592-1390 Fax: +81-3-3581-7854 E-mail: z-kokusai@shakyo.or.jp

事業実施経過

■事業実施経過

令和3年8月	令和3年度第1回国際社会福祉基金委員会にて実施要綱を審議、決定
令和3年11月	実施要綱の発送
令和4年1月4日	助成申請の締め切り 申請：10事業
令和4年2月	第2回国際社会福祉基金委員会にて申請の審査 承認：7件 保留：3件（→その後、追加審査にて承認）
令和4年3月	審査結果の通知
令和4年5月	助成金の送金
令和4年10月	修了生から事業の概要を紹介した動画の提供
令和5年1月	修了生から事業報告書、決算書の提出

■アジア社会福祉従事者研修 修了生助成事業の実績データ

○事業開始：1997年（平成9年）～

○助成先国別（1997～2022年）

	助成回数（団体数）	金額（単位万円）
韓国	10回（4団体）	395万円
台湾	9回（5団体）	360万円
フィリピン	42回（12団体）	1,239万円
タイ	60回（16団体）	1,739万円
マレーシア	13回（5団体）	385万円
スリランカ	28回（6団体）	765万円
インドネシア	38回（9団体）	1,020万円
バングラデシュ	4回（1団体）	150万円
	204回（58団体）	計6,053万円

○助成元組織（現在）：

公益財団法人日本社会福祉弘済会、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団、
国際社会福祉基金

（過去の助成元）

社会福祉法人社会福祉事業研究開発基金、安田火災ちきゅうくらぶ、霊友会、
全国保育士会、上溝保育園、アジア・フレンドシップ・ファンド（AFF）

※国際社会福祉基金と国際交流・支援活動会員

全国社会福祉協議会の国際交流・支援活動の財源となる国際社会福祉基金は、全国の福祉関係者からの拠金をもとに1991年に創設されました。この基金により、アジア社会福祉従事者研修を通して各国の研修修了生や彼らの推薦・所属団体と「顔の見える」ネットワークを築き、助成事業やスタディツアー、アジア社会福祉セミナー、災害支援などへと活動を広げ、お互いの信頼関係を深めてきました。これらの交流・活動に対し、福祉関係者の皆さまには、2016年度から「国際交流・支援活動会員制度」にご協力をいただいております。皆さまのご支援・ご協力に感謝申し上げます。

令和4年度会員数

法人・組織会員	36 法人
賛助会員	2 法人
個人会員	28 名

The Philippines

フィリピン共和国 基本情報



面積 ^{※1}	約 30 万km ² 日本の約 8 割
人口 ^{※1}	1 億 1,388 万人 (2021 年)
人口密度 ^{※1}	380 人/km ² (2021 年)
主要民族 ^{※2}	マレー系が主体、他に中国系、スペイン系等
主要言語 ^{※2}	国語はフィリピン語 公用語はフィリピン語、英語
主要宗教 ^{※2}	カトリック 83%、その他キリスト教 10%、イスラム教 5%
政治体制 ^{※2}	共和制
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	3,430 米ドル (2020 年)
通貨 ^{※1} (1米ドル= 138.169 円換算)	1 米ドル= 54.48 フィリピンペソ (2022 年平均) 100 円≒ 39.430 フィリピンペソ
平均寿命 ^{※1}	男 67 歳、女 75 歳 (2020 年)
65 歳以上人口割合 ^{※3}	5.72% (2021 年)
合計特殊出生率 ^{※1}	2.49 (2020 年)

レートは 2023/5/19 時点

※1 二宮書店 データブック オブ・ザ・ワールド 2023年版 ー世界各国要覧と最新統計

※2 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>

※3 The World Bank Population ages 65 and above (% of total population)
https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?name_desc=false

※4 The World Bank Fertility rate, total (births per woman)
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN>

Thailand

タイ王国 基本情報



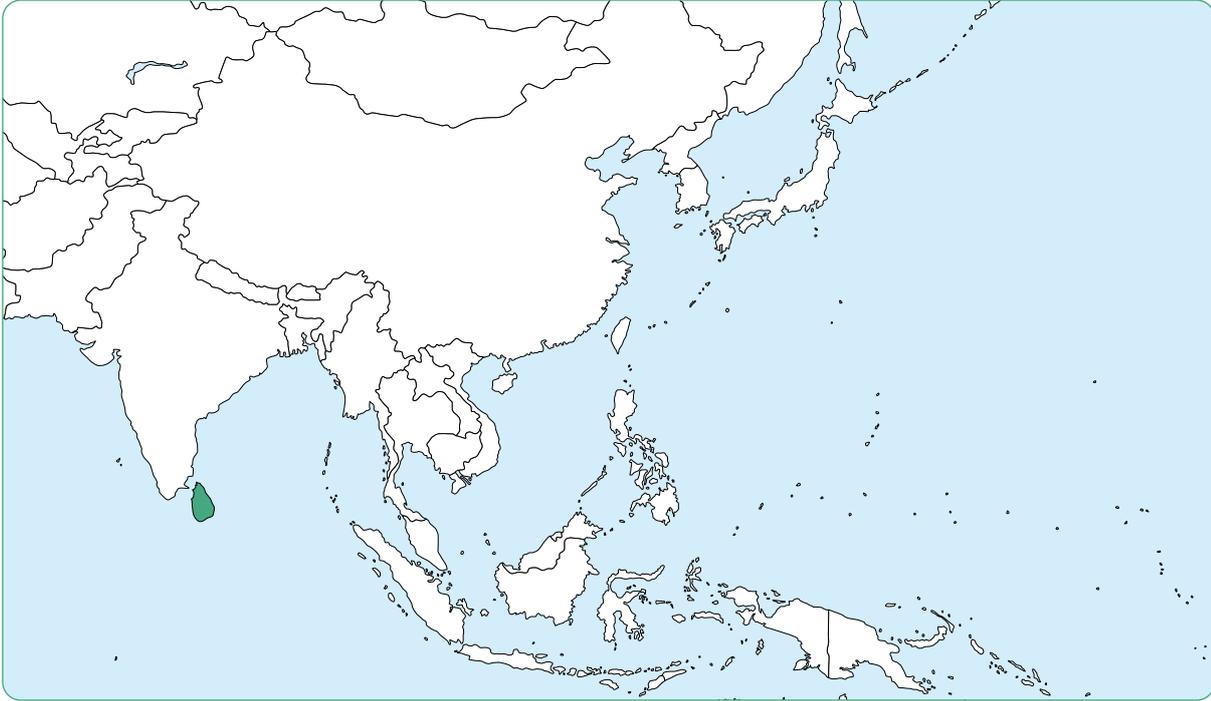
面積 ^{※1}	約 51.3 万km ² 日本の約 1.4 倍
人口 ^{※1}	7,160 万人 (2021 年)
人口密度 ^{※1}	140 人/km ² (2021 年)
主要民族 ^{※2}	大多数がタイ族。その他 華人、マレー族等
主要言語 ^{※2}	タイ語
主要宗教 ^{※2}	仏教 94%、イスラム教 5%
政治体制 ^{※2}	立憲君主制
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	7,070 米ドル (2020 年)
通貨 ^{※1} (1米ドル = 138.169 円換算)	1 米ドル = 35.06 バーツ (2022 年平均) 100 円 = 25.375 バーツ
平均寿命 ^{※1}	男 74 歳、女 81 歳 (2020 年)
65 歳以上人口割合 ^{※3}	15.4% (2021 年)
合計特殊出生率 ^{※4}	1.5 (2020 年)

レートは 2023/5/19 時点

※1 二宮書店 データブック オブ・ザ・ワールド 2023年版 一世界各国要覧と最新統計
 ※2 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>
 ※3 The World Bank Population ages 65 and above (% of total population)
https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?name_desc=false
 ※4 The World Bank Fertility rate, total (births per woman)
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN>

Sri Lanka

スリランカ民主社会主義共和国 基本情報



面積 ^{※1}	約 6.6 万km ² (2022 年) 北海道の約 0.8 倍
人口 ^{※1}	2,177 万人 (2021 年)
人口密度 ^{※1}	332 人/km ² (2021 年)
主要民族 ^{※2}	シンハラ人 (74.9%)、タミル人 (15.3%)、スリランカ・ムーア人 (9.3%) (一部地域を除く値)
主要言語 ^{※2}	公用語 (シンハラ語、タミル語)、連結語 (英語)
主要宗教 ^{※2}	仏教徒(70.1%)、ヒンドゥ教徒(12.6%)、イスラム教徒(9.7%)、キリスト教徒(7.6%) (一部地域を除く値)
政治体制 ^{※2}	共和制
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	3,720 米ドル (2020 年)
通貨 ^{※1} (1米ドル = 138.169 円換算)	1 米ドル = 198.76 スリランカルピー (2021 年平均) 100 円 = 143.853 スリランカルピー
平均寿命 ^{※1}	男 73.8 歳、女 80.4 歳 (2020 年)
65 歳以上人口割合 ^{※3}	11.00% (2021 年)
合計特殊出生率 ^{※4}	2.17 (2020 年)

※1 二宮書店 データブック オブ・ザ・ワールド 2023年版 一世界各国要覧と最新統計

※2 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>

※3 The World Bank Population ages 65 and above (% of total population)
https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?name_desc=false

※4 The World Bank Fertility rate, total (births per woman)
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN>

レートは 2023/5/19 時点

Indonesia

インドネシア共和国 基本情報



面積 ^{※1}	約 191 万km ² 日本の約 5 倍
人口 ^{※1}	2 億 7,375 万人 (2021 年)
人口密度 ^{※1}	143 人/km ² (2021 年)
主要民族 ^{※2}	約 300 (ジャワ人、スダ人、マドゥーラ人等マレー系ほか)
主要言語 ^{※2}	インドネシア語
主要宗教 ^{※2}	イスラム教 86.69%、キリスト教 10.72% (プロテスタント 7.60%、カトリック 3.12%)、ヒンズー教 1.74%、仏教 0.77%、儒教 0.03%、その他 0.04% (2019 年、宗教省統計)
政治体制 ^{※2}	大統領制、共和制
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	3,870 米ドル (2020 年)
通貨 ^{※1} (1米ドル = 138.169 円換算)	1 米ドル = 14,849.85 ルピア (2022 年平均) 100 円 = 10,747.64 ルピア
平均寿命 ^{※1}	男 69 歳、女 74 歳 (2020 年)
65 歳以上人口割合 ^{※3}	7.00% (2021 年)
合計特殊出生率 ^{※4}	2.2 (2021 年)

レートは 2023/5/19 時点

※1 二宮書店 データブック オブ・ザ・ワールド 2023年版 一世界各国要覧と最新統計

※2 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>

※3 The World Bank Population ages 65 and above (% of total population)
https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?name_desc=false

※4 The World Bank Fertility rate, total (births per woman)
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN>

アジア社会福祉従事者研修 修了生福祉活動助成事業 2022 年度実施報告
2022 JNCSW Grant Program for the Ex-Trainees of Asian Social Welfare Workers' Training Program

2023 年 7 月

発行

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL : 03-3592-1390 FAX : 03-3581-7854

Japan National Council of Social Welfare
International Social Welfare Fund Committee

Shin-Kasumigaseki Building,
3-3-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980, Japan
TEL: 81-3-3592-1390 FAX:81-3-3581-7854
E-MAIL: z-kokusai@shakyo.or.jp

全社協福祉ビジョン 2020 推進事業

支え合う アジアの福祉
ネットワーク